



大槌の復興から 世界へひろがる海洋研究

プロジェクト「グランメーユ」「グランメーユ」とは、フランス語で「大きな木柱」の意

「プロジェクトメニュー」とは？

東京大学大気海洋研究所が、岩手県大槌町を拠点におこなっている東北マリンサイエンス拠点形成事業です。東北マリンサイエンス拠点形成事業では、2012年から10年間にわたって3研究機関が連携し、多数の研究者を結集して科学的調査を行います。



▶ プロジェクトメニュー



東京大学大気海洋研究所

岩手大学

東京海洋大学

課題

海洋生態系変動メカニズムの解明

大槌湾・三陸沿岸域 (課題代表 木暮一啓)

震災が沿岸生態系・生物資源に及ぼした影響と、そこからの回復過程の科学的解明。持続的観測、モデリングによる漁業復興への道路の提示。

1 沿岸広域連続モニタリングシステムと海洋分析センターの構築 (代表 津田敦)

2 地震・津波による生態系攪乱とその後の回復過程に関する研究 (代表 河村知彦)

3 震災に伴う沿岸域の物質循環プロセスの変化に関する研究 (代表 永田俊)

4 陸域由来の環境汚染物質の流入実態の解明 (代表 小川浩史)

5 物理過程と生態系の統合モデル構築 (代表 田中潔)

6 集水域・河川・河口域・沿岸域における化学物質動態の解析 (岩手大学に委託、代表 海田輝之)

7 河口・汽水域及び沿岸域における河川水の混合拡散のモニタリングとそのモデル化 (東京海洋大学に委託、代表 山崎秀磨)

東北大学 (代表機関)

北里大学

課題

漁場環境の変化プロセスの解明

女川湾・仙台湾

海洋研究開発機構 (JAMSTEC)

東海大学

課題

沖合海底生態系の変動メカニズムの解明

沖合海底環境

課題 東北マリンサイエンス拠点 データ共有・公開機能の設備運用

東北マリンサイエンス拠点形成事業



1

プロジェクトメニューの目指すところ ①

海の中を調査します

2011年3月の震災のあと、海の中はどうなっているのでしょうか。また、今後はどうなっていくのでしょうか。私たちは海にモニタリング機器を設置するとともに、研究船や潜水作業などによる観測を多角的に組み合わせ、最新の技術と解析手法を駆使してそれを解明していきます。



2

プロジェクトメニューの目指すところ ②

魚の増える仕組みを解明します



三陸の地は長く漁業で栄えてきました。では、なぜこの海域には魚が豊富なのでしょう。それを知るには物理学、化学、生物学の専門家らの力を結集した研究が必要です。私たちは大槌周辺域の魚が増えるしくみの解明を通じて、皆様の漁業のお手伝いをしたいと考えています。

3

プロジェクトメニューの目指すところ ③

地元と結びつく研究をします

大槌の地に東大大気海洋研究所の国際沿岸海洋研究センターが建ってから、2013年で40年経ちます。私たちは一刻も早く沿岸センターを大槌の地に復興させたいと強く希望しています。そこを足がかりに海を知り、魚が増えるしくみを知り、地元の皆様にわかりやすく伝えることを目指します。さらに地元の皆様にも開かれた新たな場としていく予定です。



4

プロジェクトメニューの目指すところ ④

日本中、世界中から大槌に



大気海洋研究所は、全国16の大学と2つの水産技術研究センターから、160名以上の研究者、大学院学生の力を結集してこの事業を推進します。沿岸センターを国際研究拠点として復興させ、日本中、世界中から研究者がやって来ることを目指します。



プロジェクトメニュー

- E-mail** teams@aori.u-tokyo.ac.jp
- URL** <http://teams.aori.u-tokyo.ac.jp/>
- Twitter** http://twitter.com/teams_aori



東北マリンサイエンス拠点形成事業
—海洋生態系の調査研究—
Tohoku Ecosystem-Associated
Marine Sciences, since FY2011

<http://www.i-teams.jp>



東京大学
大気海洋研究所
Atmosphere and Ocean Research Institute
The University of Tokyo

<http://www.aori.u-tokyo.ac.jp>

東京大学大気海洋研究所

附属国際沿岸海洋
研究センター

〒028-1102 岩手県上閉伊郡大槌町赤浜 2-106-1
電話：0193-42-5611

柏キャンパス

〒277-8564 千葉県柏市柏の葉 5-1-5
電話：04-7136-8168 FAX：04-7136-6266